

連雀学園の支援活動 市内最大数の年間ボランティア参加者数 3352人!

東京都三鷹市

活動名

連雀学園コミュニティ・スクール委員会

関係する学校

三鷹市立第一中学校・第四小学校
第六小学校・南浦小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成19年9月10日	21人	2,700人	93学級

活動の概要

平成20年4月に開園した連雀学園は、第一中学校と、その学区内にある第四小学校、第六小学校、南浦小学校の3つの小学校で構成される、児童・生徒数 合計2700名の市内でも最大の学園(施設分離型の小・中一貫教育校)である。小・中学校が同じ学区の地域の力を共有し、それを最大限に生かせるコミュニティ・スクールを基盤として学園・学校運営をしている。

コミュニティ・スクールの指定は、第四小が平成18年10月6日、第六小、南浦小、第一中は平成19年9月10日である。連雀学園のコミュニティ・スクール委員会(以下CS委員会)は、保護者及び地域の住民等が連雀学園の運営に積極的に参画することを通して、その意向を学園の運営に的確に反映し、一層地域に開かれた信頼される学園を実現することを目的に活動している。

CS委員会の協議においては、学園評価・学校評価の一体化の推進や、CS委員会による学校関係者評価を適時適切に行い、保護者、地域の意見を反映した自律的な学園・学校運営を支援している。

学園の支援活動は、CS委員会の3部会と、平成10年からの第四小学校をはじめ、各小学校の学校支援組織が連携して行っている。平成25年度の学校支援ボランティアの参加述べ人数は、年間3,352人と市内で最も多かった。学習支援、健全育成、安全指導、環境整備等の充実に多大な貢献をしている。

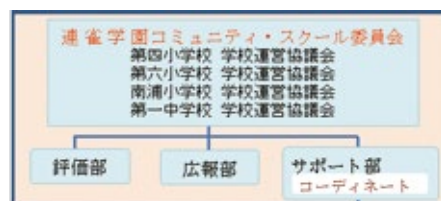
特徴

【特徴的な活動内容】

- CS委員会には、評価部、広報部、サポート部の3部会があり、委員はいずれかの部会に所属し、学園・学校の支援を行っている。
 - 評価部：保護者、地域、児童・生徒を対象とした学園評価等のアンケート調査(調査票の作成、集計、分析、学園への提言、地域・保護者への結果の周知)を年1回行う。
 - 広報部：学園広報誌(年9回発行)やHPなどを通して学園の様子を知らせる活動を行う。
 - サポート部：学校支援組織の連絡・調整のもとに、学園の教育活動への保護者・地域人材の積極的参画の促進や、児童・生徒の健全育成に関する活動の企画・運営を行う。
 - ・「連雀百景」実行委員会を中心とした活動の推進
 - ・天文台等との連携を図った活動の企画等
- CS委員会主催の子ども熟議を中学生をファシリテーターとして実施

【実施に当たっての工夫】

- コミュニティ・スクール委員会の組織・運営の活性化に向けて
 - 評価部は、学校評価と学園評価を一体化させた評価アンケートを作成、実施・分析することで、学園・学校経営計画との関連がより明確になり、改善策検討の協議が深まった。
 - 広報部は、学園ニュースの紙面構成を読みやすく改善するとともに、学園HPの発信内容の整理と、前年度より更新回数を増やしたことにより、取組状況がよくわかると好評である。
 - サポート部は、各校の学習支援組織の連絡会を新たに開催し、話し合いをコーディネートしたことにより、学校間でより連携して人材を派遣する体制が整えられた。
- CS委員会が主催した子ども熟議を、児童会・生徒会が学園の活動に企画からかかわれる場とすることで、学園の児童・生徒の自主性、自発性をより高めることができた。
 - テーマ：「連雀学園で小学生と中学生が協力してできること、してみたいこと」



学園：学校支援組織
(NPO法人・夢育支援ネットワーク、第六小心のふるさとネットワーク、南浦小学習サポートネットワーク)

連雀学園CS委員会の組織図



CS委員会主催の「子ども熟議」

事業を実施して

- 連雀学園のコミュニティ・スクールでは、CS委員会のサポート部と支援組織(第四小：NPO法人・夢育支援ネットワーク、第六小：心のふるさとネットワーク、南浦小：学習サポートネットワーク)が連携して、様々な地域・保護者の支援が得られるため、教育活動の充実につながっている。
 - 特に各小学校の学習支援組織が機能し、日常的な学習場面に保護者や地域の方が授業や学校行事に入ることで、児童・生徒の安心感と基礎学力の向上につながっている。また、保護者や地域の学校・学園への理解が深まり、学校・家庭・地域が教育の当事者として地域の子供たちを育てる意識が高まってきた。
- 小・中学生相互の協力により意見をまとめ、その後の児童・生徒会活動につながった。

その他

学校支援組織力を活用し、地域人材を生かしたキャリア・アントレプレナーシップ教育(※)を実施。様々な人とかわりながら企画から実践、振り返りを子供たち自身が行うことで、達成感を高めることができた。(※アントレプレナーシップ教育とは、より実社会に近い体験活動をおとして、子供たちに困難を乗り越えようとするチャレンジ精神や創造力等、起業家がもつような意欲と能力を養う教育)